

石クリ通信

5月号

プーチンの罪 院長 石川 悟

ロシアがウクライナに侵攻して一年以上が経って、これからどのように戦況が推移し、終息に向かうのか、予想がつきません。罪のない人がミサイル攻撃で亡くなり、多くの人が難民となつて国を離れ、また世界的な経済の混乱から、穀物やエネルギー価格の高騰を招いています。

東西冷戦の終結後、物の流れがグローバル化し、インターネットの出現で情報が瞬時に世界の隅々まで届くようになり、これから戦争は起きないのではないかと多くの人の淡い期待を、プーチンは見事に裏切っていました。

核爆弾の使用もあり得る、とほのめかし、世界中を不安に陥れています。日本も含め、多くの国で防衛費の増額が始まっています。いつか自分の国が他国に攻め込められるのではないかとという恐怖心は、強い負のエネルギーを生み、国と国の対立をさらに悪化させることになるでしょう。

理想主義的だと批判されるかもしれませんが、今こそ求められるのは軍備拡張ではなく、政治、宗教、文化を超えてお互いを理解する方法の模索だと思えます。プーチンの戦争がもたらした国家間の不信感を払拭するために、政治家はもろろんのこと、一般の人も努力する必要があります。

家族大移動 看護師 澤田 彰子

澤田家では3月から4月にかけて引越しが4回もありました。家中が段ボールと荷物で溢れいて寝るスペースを確保するのも大変でしたが、ようやくそれぞれ引越しが終わりました。せっかくなのでゴールデンウィークですが残された荷物の片付けで終わってしまいそうです。

驚きです 事務 森 多加子

先日、友人と久しぶりにランチに出掛けました。東海にある定食屋さんなのですが、何を食べても美味しいです。そしてとにかく盛りがいんです。ごはんはかなり大きなお茶碗にたっぷりよそられてくるので、少なめでとお願いします。友人は初めてだったので、「ごはんは多いから少なめの方がいいよ」と言っていたのですが、「大丈夫、食べられると思う」と。完食してさらに「まだいける」って。そんなに痩せてるのに、どこに入るの!? 驚きです(笑)

坂本龍一 事務長 石川 都

坂本龍一の訃報を聞いた。彼は私の三歳上で院長と同学年、都立高から学生運動への団塊世代の象徴的存在だった。ただ私にとつては彼自身より、彼の父が三島由紀夫らの名編集者だったことや、私と同年の前妻矢野顕子の天衣無縫な弾き語りの方が身近だった。要するに彼の音楽には昔の愛好家でのしかなかった私だが、彼の人生後半の、現代社会の諸問題への積極的な発言や活動には、同世代として共感するところが多かった。

二〇〇一年の米国中樞同時テロにニューヨークで遭遇してからは反戦を唱え、その後一五年の第二次安倍政権の安保法整備に際しては、国会前の抗議集会に参加し、憲法九条の精神を若者たちに訴えた。

また環境活動にも熱心で、二〇一一年の福島原発事故では反原発を訴え、福島を音楽で支援し、東北ユースオーケストラの創設にも尽力した。さらに死の直前は、神宮外苑再開発に対し「先人が百年かけて守り育てた貴重な樹々を、目先の経済的利益のために犠牲にしてはならない」との書簡を、小池百合子都知事に送っている。

そうした彼の多岐にわたる活動は、音楽という枠を超えたグローバルな視点から、現代人としての生き方考え方を問い続け、発信し続けたことで、若者たちに多大な影響を与えた。彼は死についても彼らしい言葉を残している。「生きるというのはいつの長い呼吸のようなものだと思うんです。吸っては吐く、この一つの循環。そしてその流れが止まる・・・僕が死んだ時、僕の体は地に還って微生物などに分解され、次の世代の生物の一部となって再生することでしょう。この循環は、生命が誕生してから何十億年と続いて来ましたが、これからも続いていくはずなんです。僕という生命現象は、そうした気の遠くなるような循環の一過程なのだと思っています。」

小さな庭 看護助手 柴田 さち子

小さな庭にも四季があります。春は花が咲いて、心を癒してくれます。夏は野菜、トマト、キュウリ、ナス、ピーマン、オクラ、さやえんどう、ジャガイモと毎日新鮮な採り立てが食べられます。秋は紅葉がきれいです。小さな庭でも一年間私たちが 楽しませてくれています。



「入居者募集!？」 事務 吉田 政子

「入居者募集!？」の貼り紙を、動物園内「がおーこく」という猛獣舎の掲示板で目にしました。猛獣舎で、入居者募集というミスマッチに興味津々で見に行くと、コーポがおーこく(猛獣舎)のバックヤードの間取り図の紹介でした。ユーモアのある、面白い掲示物とだなあと感じじつくりと隅々まで見入っていました。

入居者募集!?

お問い合わせ 0294-22-2000 かみね不動産

5LDK

3JDK

4TDK

花見 看護師 太田 小百合

今年は少し足をのぼして、福島の桜を見て来ました。小川諏訪神社という所のシダレ桜です。樹齢五百年以上のシダレ桜は、とても優雅で美しい樹でした。五百年前といえば、室町から安土桃山時代で、私の最も興味のある時代です。その当時の人と同じ桜の木を見ているのかと思うと、タイムスリップしたような気持ちになり、ワクワクした気分を味わえました。

